

Monthly Report 月間報告 2004年1月～6月

2004年1月

新年早々、スリに遭いました。特にひったくられたり、暴力を振るって奪われたわけでもなく、なによりもどう盗まれたのかわからないほど一瞬の出来事。それこそ、車からほんの数秒間だけ外にでて、すぐに戻ったその間に、ポケットに入れてあった財布(2千円程度のお金)が消えていたのです。その前に車のなかで財布をポケットから出す様子などをずっとどこかからか見られていたのは間違いありません。

すぐに届出をしたところで、盗られたものが返ってくるわけでもなく、また警察も財布ごときで敏速に動いてくれはすもないので、あきらめるしかありません。もう街中を探し回っても犯人を見つけ出すことは不可能だし、なによりこれといった証拠もない。どうしようもないので忘れるしかないのに、それがなかなか忘れられないのです。そして、自分の頭の中はパニック状態なのに、周りはいつものように静かに時間が流れていきます。「ああ、これがスリなんだなあ」と、初めてスリに遭ったわりにはあっけなさが印象的でした(以前ニカラグアでは4羽の鶏が盗まれた現場に出くわしたことはありますが)。

そして、盗まれた財布に団体所属を示す身分証明書があったので、それが悪用されないために警察へ届出に行きました。エチオピアのお役所ですから、1枚の事件報告書を書くのに1日は掛かるものと覚悟を決めていました。そのとおり、担当はあっちだ、こっちだと散々たらいまわしにされた挙句に、担当者がちょっと外に出ている、代わりの者は会議中だ。否、いるけどもこの件に関しては明日来い・・・などなど。案の定一日作業でようやく終了。一日で終わったのが奇跡とも言えます。その後、報告書を元に調査をしてもらっているものの、1ヶ月たった今でも何の連絡なし。スリに関してはプロ並みの手早さで仕事をするこの国にあっても、官僚達の仕事ペースは依然として不効率。このギャップに苦笑いするしかありません。

ただ、この笑えるギャップがあるからこそ、物事に慌てることなく、そして余計な心配をする必要もないのかもしれない。「心配」とは「心」を「配る」と書きますが、この配る対象が何であるのかしっかり吟味しないままに、大切な自分の心が奪われてしまっていることがよくあると思います。同時に、「心配」という言葉でいつも思い出すのは、聖書にあるこの言葉です。

「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」新約聖書マタイ6章33、34節。

今年も様々なことが待ち受けていることでしょうが、大切なことにまず心を配る生活をしていきたいと、その思いを新たにさせられる月でした。

2004年2月

エチオピアは世界でも最貧国リストの下から数えたほうが早いと言われる国ですが、私が住む住宅街周辺では、その貧しさというイメージを覆すような建設ラッシュが続いています。基本的に私有地制度のない国ですので、住民に同じような区画があてがわれ、一定の料金(賃貸?)を政府に支払います。さらにスペースがほしい場合には、1平方メートル当たりの値段が吊り上げられ、かなりのお金持ちでないと追加の土地は得られないとのこと。それでも所狭しと、2、3階の背丈だけは高い家が徐々に立ち並び始め、その景観はまさに日本の都市住宅地そのもの。見るも見事な大豪邸も、このエチオピアにあって、いったいどこからお金を持ってきて建てているのだろうと不思議な思いに駆られます。

日本の三倍の土地に、日本の約二分の一の人口しかないエチオピアですが、首都の新しい住宅地に関しては、あまり余裕のある状況ではないようです。よっぽど大きなマンションなどを建てたほうが土地利用を考えると効率がいいのではないかと思うのですが、エチオピア人はあまりマンション住まいを好みません。どんなに狭い土地で小さな庭の家であっても、一戸建てがいいのです。休日に友人を招き、誰にも邪魔されない庭でパーティーでもするのがひとつのステータスのようです。

さて、エチオピアの土地にまつわる事で一番怖いのが、いままで広々とした畑に限らず、すでに建っている古い家々が、ある日突然ブルドーザーが来て区画整理やら、道路建設が始まることの間々あることです。もともとこれは政府の土地だ、と言われれば住民は返す言葉がないからでしょうか。私が住むところから数百メートルのところまで最近始まった道路建設も、これまではテフ(エチオピアの主食インジェラの材料となるヒエ科の穀物)が一面に植えられて、収穫時期は日本の稲作風景を思い起こさせるような、ゆったりとした空間だったのですが、今では広い畑が真っ二つに割れて、砂利がひかれた大きな道と化してしまいました。きっと新たな住宅街となるのでしょうか、どのような街並みになるのかのデザインがとてもあるようなには思えないような、ずさんな道作りなので将来が気がかりです。

現在私が住むところも、住宅建設が進むにつれて、街全体が狭苦しい雰囲気になり、子供たちが遊べるような公園や広場、木陰もなければ、歩行者専用道路もありません。今は何もないうまくさらな土地だから、余裕をもって考えられるのかもしれませんが、10年後にここがどうなっているのかを思い描くことがなかったら、取り返しのつかないことにもなりかねません。もちろん、エチオピアの土地は、住民ではなく政府のものなので、街のデザインも10年後にそこにいるかどうか分からない政府役人が作成するのでしょうか。

10年などの長期にわたる計画は、「優先・重要課題」であっても、「緊急」に対応しなければならないことでもないもので、放置されがちです。現在私が関わろうとしているプロジェクトにおいても、長期計画に沿ったものですが、時々その目標を見失うことがあります。重要ではないのに緊急なことに日々気をとられてしまうからです。そして、重要な目標から外れたまま、時は

すぐに経ってしまいます。それを特に強く感じた 2 月でした。気をつけなければなりません。

今は何もない新地が、気づいた時には住み心地の悪いスラム街とならないよう、「このような街にしたい」という優先課題がエチオピアの街づくりにもあることを願いつつ。

2004 年 3 月

◇ご挨拶◇

皆様いかがお過ごしでしょうか。花粉が舞ってつらい方々もいらっしゃることでしょう。日本は桜が満開の頃でしょうか。季節を感じさせるものが、四季折々日本にはあるのがうれしいものです。エチオピアは雨が降る雨季、そして雨が降らない乾季の二つしかなく、ブーゲンビリアなどの花はほぼ一年中咲いています。観ていて綺麗な花々ですが、いつも咲いているからか、エチオピア人はあまり花に関心をそれほど寄せません。先日は桜の色にそっくりな花の木をオーデイトプロジェクト近くで発見。花の形は異なっても、薄ピンクの花々にしばし日本の桜を思い出しました。

あと、3 月 27 日は NHK ラジオに出演しました。ある程度用意していた原稿を元にぴったり指定の 3 分を話しましたが、原稿にない質問が途中で出たので焦りました。とりあえずはエチオピア旱魃による被害のことなどがアピールできたのは良かったかと思えます。

◇近況◇

エチオピアの桃

ご挨拶でも触れましたが、エチオピアには 2 つの季節しかないのが、街の景観、着る服にもそれほど変化がありません。ただ、食べ物、特に首都アジスアベバでは果物に関しては季節によって市場に出るものに多少の変化があります。

パパイア、オレンジはほぼ一年中ですが、マンゴは今から今年の終盤ぐらいまで。プラムは 2 月の 2-3 週間。そして、今月は小さな桃を発見。エチオピアに 3 年いながら、今まで気がつかなかった…。一見これが日本の梅そっくり！梅サイズのもので、皮もちょっと産毛が生えたようなザラザラ感がある。これをどうやって食べるのか？と初めは店の人に聞いても、「ただ皮をむいて食べるだけだ」と素っ気無い。いや、ひょっとして塩に漬け込んだりとかしないの？と期待を持って聞くとちょっと奇妙な顔をされました(当たり前ですが)。いざ買って食べてみると、まさに桃の味。種が大きいのであまり実がついていなく、また甘みも日本の桃ほどではありません。それでも、この果物は季節ものらしく、この 1-2 ヶ月の間だけとか。エチオピアの季節

感を楽しんだ瞬間でした。

◇プロジェクトアップデート(活動報告):オーデイト(ジンマ訪問)◇

オーデイト農業復興プロジェクトは、首都から 170km 南西にあるグラゲ県にあり、ツェツェバエを媒介として家畜のトリパノソーマ症(アフリカ眠り病)が 20 年以上前から蔓延。農耕のほとんどを牛に頼っている農民達は、駆除用の適切なワクチンがないこと、適切な政府の対応がなかったために、眠り病の被害を止めることができず、農耕を諦めこれまで農地が放置されていました。生計は、子供たちを靴磨きなどで街へ送り出して稼ぎをさせるか、チャットという覚醒作用のある葉っぱを売るか。もちろん、この葉っぱを噛むことで空腹を紛らわせている子供たちがいることも事実で、栄養状態の悪い子供(もちろん大人も)が多くいます。

農業復興プロジェクトでは、2001年からこれらの放置された土地をトラクターで耕すサービスを、農民が集結してできた協同組合を通して供給し、同時に健康な農耕のための牛をローンで貸し出すこと。また、現在地域にいる家畜の診療。そして、女性を対象に家計向上を目的とした小規模の融資も農協を中心として運営できるように、主に新しく立ち上がった農業共同組合の支援をしています。

さて、今月は農協に加わっている農民達を、エチオピア南西部のジンマへ連れて行き、コーヒー売買で大きな業績を上げてきている農業協同組合の視察をしてきました。ジンマはまさにコーヒーの原産地。「百聞は一見にしかず」で、農民達が実際に自分の目でコーヒーの原生林、コーヒー豆の処理工場などを見学し、また農協のメンバーとディスカッションをしたことで、これから自分達が運営していく農協へのヴィジョンを含ませるのに大きく役立ったようです。詳しいことは3ヶ月ごとに発行している印刷版「Ashamaa!!」の次号にて触れたいと思います。

◇今月の「はまったモノ、こと」◇

このコーナーでは私がエチオピア滞在、および働きの中で興味を持ったこと、これはいい!と思ったことなどに触れていきます。と言っても、エチオピア生活で「いけてる!」と思うことを見つけ出すのは至難の技なのですが、あまり深く考えずに自分の日常生活の小さなことから取り上げていきたいと思います。

まずは一人暮らしからやむを得ず始めた料理が、思わぬ私の唯一の趣味、ストレス解消となりつつあり、はまっていることでもあります。なので、日本から送られてきた料理雑誌、地元の情報、インターネットの料理サイトで見つけて、やってみたらよかったという料理の一部をこれからも紹介していきたいと思います。

ただ、私は細かいレシピを見て確認しながら料理するよりも、写真やレシピを 10 分以内にとりあえず頭に叩き込めるぐらいの、シンプルな料理だけをいっきに(勢いで...)仕上げま

すので、かなり雑です。こうしたらい、というコメントがあったら是非お願いします。
もちろん、今月の料理以外のことも触れるものがあれば、今後もそうして行きたいと思いま
す。

さて、今月は・・・

「豚の角煮」!!!

エチオピア料理では豚肉を食べることがないので、豚肉がたまには食べたくなるのです。しか
も、トロっと口のなかでとろけるようなあの角煮が。とりあえず母から習ったレシピを基本
に。

豚のバラ肉が必要ですが、こちらのスーパーでは脂がのったバラ肉を店頭に出さないので、
「ベーコンのように白い脂の部分がたっぷりのった部分をくれ」と注文しないと手に入りません。
何故こんな脂だらけの部分をほしいがるんだろう、不思議そうな顔で店員さんに見られます
が。

1. 500グラムぐらいの肉を大きなサイコロ状に切って、肉がかぶる位の水の中に、つぶした
しょうが、ねぎ、酒(こちらでは白ワイン)半カップを入れて、圧力鍋で20分加圧。(この圧
力鍋にも最近ハマっている)
2. その上にラップを敷いて自然放置。一晩置くと、白い油がラップの上に層にたまるので、
それをラップごと全部捨てる。
3. 肉はお湯で洗い、再び鍋に入れ、酒(白ワイン)一カップと肉だけで圧力鍋で加圧5分。
4. 鍋を水で冷やしたりして急冷し、その中に醤油4分の1カップ、みりん(ないので省略)、
砂糖を適量に入れて蓋を開けた状態で、煮つめて仕上がり。

いままで具がキャベツとにんじんだけの味気なかったラーメンが、角煮が加わったことで元氣
を取り戻しました。

◇今月の言葉◇

ここでは、この月で印象に残った言葉を掲載していきます。私はキリスト教徒なので、聖書の
言葉が断然多くなるかと思いますが、今年から習い始めているオロモ語からも面白いと思っ
たことわざなども紹介したいと思います。

“Turina keessatti, killen millaan deemti.”

訳: 卵も待てば足で歩き出す。

教訓:じっと忍耐すれば事はうまくいくもの。(オロモ語のことわざ)
(エチオピアの主要言語のひとつ、アムハラ語でも似た様なものがある)

「生まれる前から、私はあなたに、ゆだねられました。母の胎内にいた時から、あなたは私の神です。」旧約聖書、詩篇22編10節

◇覚えてほしいこと、祈ってほしいこと・・・◇

1. 小雨季がようやく始まろうとしています。今年も昨年と同様に恵みの雨がもたらされますように。
2. 先月の報告でも触れましたが、ここ数年来の旱魃の影響で移住を余儀なくされたエチオピア東部からの住民のこと。これから私たちとして新たに関ることができないかどうか、検討しているところです。よき準備、調査ができますように。
3. 日本にいる家族のため(健康など)。

◇あとがき◇

この号から、いままでの月間報告の形をガラッと変え、メールマガジンのようにしましたが、いかがでしたでしょうか？いきなり変わったので、そのギャップに驚かれる方もいらっしゃるかもしれません。

内容について、またメールの読みやすさ(文字の大きさ、行数、行間、文字数など)など、皆様からの率直なご意見、ご感想をお待ちしております。遠慮なくよろしく願いいたします。

それではまた、

森田哲也

2004年4月

◇ご挨拶◇

日本の4月は新学年、異動、引越しなど、いろいろと新たなことが始まる月ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？いつもご支援をありがとうございます。

先月から始まっていたエチオピアの小雨季も、今月で終わり。農作物の成長が気になる農村でも、ある程度は期待通りの雨となったようです。このまま続けて6月から9月までの大雨季にも期待したいところです。

◇近況◇

悲しい羊たち

今年の復活祭でもたくさんの羊たちが犠牲となりました。多くのエチオピア正教会の信者たちが、1ヶ月以上肉食を断つ生活をした後に、皆が復活祭のお祝いで様々な家畜を屠るのです。普段はエチオピア人が食べない鶏肉は、お祝い事のときにだけ頂く豪華なご馳走として扱われます。また、羊の肉も出され、復活祭当日朝のマーケットは鶏や羊を担ぐたくさんの人々を見かけます。羊は首にロープを巻きつけて、犬のように連れて行こうとしても、従うどころか地面に附してまったく歩こうとしません。最後の抵抗を試みる羊の悲しい姿です。

イースターはイエスキリストが人類の罪を「自ら」背負って十字架に掛かり、その3日後に甦ったことをお祝いする、キリスト教徒にとっては大事な日ですが、羊たちのこの死を前にした足掻きがなんと対照的に写ります。それでも、羊たちは人間の肩に担がれるか、羊の前足、後ろ足どちらかの2本をもって無理やり歩かされれば、移動せざるを得ません。

そして、同時に屠られた羊の皮が至るところで山積みされるのが、エチオピア・イースターの典型的な街の風物詩です。皮だけを買取る商人も現れ、夕方頃には山となった皮もどこかへ消えていきます。

イースターといえば、色を塗った卵を教会で思い出す方もいることでしょう。日本ではあまり馴染みのないお祝い事ですが、エチオピアでは、お正月、クリスマスと同じぐらいの大きな祝日で、田舎へ帰省する人々も多くいます。この3年間のエチオピア滞在の中で、すっかり「イースター＝羊の皮の山」というイメージが出来上がってしまいました。

◇プロジェクトアップデート(活動報告):エチオピアの NGO 事情◇

ある方からの依頼で、エチオピアの NGO 事情、および NGO として活動するための法的条件などを調べる機会がありました。

Non-Governmental Organization(非政府組織)は、日本でも人権、福祉や社会問題などの面で、行政の手が届かないようなセクターでの市民主体の活動から、私たちのような海外での国際協力活動をする団体まで様々な組織のことを意味する用語です。

エチオピアではもっぱら、80年代から始まった緊急食糧支援などをきっかけに、海外のみならず、国内(ローカル)からも、旱魃などの被害を受けた貧しい農村地域での援助活動を中心とする団体が増え、それらを一般的に NGO と呼んでいます。エチオピア政府の法務省は、海外に正式な団体登録があり、事務所も構えている諸団体を国際 NGO、エチオピア国内で理事などの基本的役割を担われる団体をローカル NGO として扱い、それぞれ登録に必要な書類から条件までが異なります。私たち FHI は前者の、国際 NGO としての登録をして再来年には 20 年を迎えます。

さて、下記の表は現在エチオピアにおける NGO の登録団体数です。データはこの 4 月中旬現在での最新のものです。

	実施団体	実施不明団体	合計
国際 NGO	129	24	153
ローカル NGO	257	379	636
合計	386	403	789

実施団体とは、もちろん登録をした上で関係政府事務所へ定期的なレポート、計画書提出をし、実際に活動をしている団体のこと。実施不明団体とは逆に、登録はしているけど活動資金が得られずにいるか、もしくはそれを待っているだけで実際の活動にまで至っていない団体のことです。もちろん、活動はしていてもレポートをしていないので、実施団体として認められていないところもあるようです。

データを見ると、国際 NGO には実施不明団体が少ないものの、ローカル NGO の場合には逆に実施不明団体が実施団体よりも多いのが気になります。このデータを提供してくれた災害対策事務所の方によると、NGO としての登録をすると、活動に必要な車などの輸入品に対して免税が適用されるという優遇措置があります。しかし、表向きは NGO として人助け的な援助活動をしているように見せかけ、実はこの免税措置をうまく使っては車などの高級品を安く購入し、あとは自分のビジネスなどに使っていたというケースがローカル NGO によくあるそうです。ちなみにエチオピアで購入する新車に課せられる税金はほぼ 200%、つまり車の実質価格の 2 倍を払わせられるのです。

また、官僚たちが退職した後の「ビジネス」としてローカル NGO を立ち上げる人々も最近多く見られるようです。官僚として仕事を長年していれば人脈もあるので、エチオピアで NGO を立ち上げるのは容易です。もちろん、健全な動機で始められている団体も多く、彼らが持つ予算額に拘らず、素晴らしい働きをしている団体をたくさん知っています。なにより、現地の人々が中心となったこれらの団体が、これからエチオピアにおける国際協力の諸事業を率先して担って欲しいと願うところです。

しかし、一方でファミリービジネスと化しているローカル NGO がちらほらと見受けられます。親戚、家族などで構成される理事会と、雇用された団体職員と仲たがいで分裂し、活動も進められないどころか汚職というケースに発展することもあります。そもそも、NGO は自主的な市民の集まりとして、市民に仕える組織であるはずですが、時としてある特定人物の所有物と化して、形を変えた官僚組織になるのはなんとも悲しいことです。日本でさえも、NPO (Non-Profit Organization) 法案を悪用して告発される事業団体があることから、これはエチオピアだけの問題ではなさそうです。

NGO、および NPO は、利潤を追求していかなければ生き残れない企業とは違うからか、その運営に関してかなり旧態依然とした体質が残っている印象もあります。そもそも市民の自発的な意志で始められたものなのですから、官僚組織のように凝り固まらず、逆にいつも変化に敏感な集まりであってほしいものです。

私たちの団体も国際協力の働きを通じて、人々の生活改善、根本的な変化を望んでいますが、なによりもまず自分たちが「変化を起こすことに対して積極的なのか？」「小さな変化にどれだけ忠実であるか？」という点が、市民団体、NGO としての健全性を表す大切な指標であると、今回の調査を通して感じました。

◇今月の「はまったモノ、こと」◇

今月は「納豆」です。

私の好物中の好物ですが、日本からたくさん冷凍して持ってくるのにも限界があります。納豆だけで埋まった冷凍庫も恐ろしい……。これまで納豆菌や、納豆の発酵のために一定の温度を保つための箱、お湯をいれる特製プラスチック容器などを日本からより寄せて自家製納豆に取り組むこと 3 年。どうもうまいかなかったのです。コツはこの一定温度を 20 時間以上保つことで、鶏の卵に使う孵化器などを街で探し回ったこともあります。納豆の発酵した香りはするものの、あの粘り気がない。仕方なく、スープに入れるなどして処理をしていました。

しかし、この度ある日本人の方から「電気カーペット」を入手。茹でた大豆に日本から持ってきた納豆 1 パックを混ぜてタッパーに入れ、それをバスタオルでくるんだものを、更に暖かい電気カーペットで包みこんで 20 時間。電気であれば、一定の温度を保てるという利点があるの

です。但し、その日だけ停電がないことを祈るだけです。そして、見事に今回は艶もネバネバもしっかりした納豆が出来上がりました。発酵したあとは冷蔵庫の中で3日熟成させます。いよいよ3年待った後の納豆の出来上がりです！もちろん、ネギやマスタードなどを入れないで、醤油だけを混ぜてシンプルに頂く。感動の瞬間でした。たかが納豆、されど納豆。まあ、お金の掛からない好物だから安上がりで心は大満足なのですから、良しとしましょう。

それでも、納豆作りは毎回違います。大豆の茹で具合、納豆の大きさ、種となる納豆の菌の質、湿度などによって出来上がりが変わります。やはりモノづくりは繰り返し、繰り返しやることで経験を積み、体でそれを覚えていかないといけないのでしょう。これで、またひとつ自分の趣味が増えました。

◇今月の言葉◇

“Qubni tokko titisa hin qabu.”

訳：一本指ではハエを捕まえられない。

教訓：一人では出来ないことが世の中にはある。

これも先月と同じくオロモ語のことわざです。こちらのハエは、サイズも小さく、日本のハエと違ってどうも動きが鈍いので蚊のようにすぐに叩いてつぶせます。食べるものが少ないからでしょうか……。かといって指2本だけでハエを捕まえられる人がいるとは思えないのですが、ハエを殺すのにそれほどの苦勞をしないエチオピアにとっては、このことわざは臨場感があります。

「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです」

新約聖書ヨハネによる福音書6章27節

◇覚えてほしいこと、祈ってほしいこと・・・◇

1. 小雨季が終わり現在は次の大雨季が始まるのを待っているところです。大雨季が始まると、ただでさえ少ない穀物の一部を食べずに、そのまま種蒔きに使ってしまうので、貧しい農村地帯の農民たちが一番苦しむ時期となります。十分な収穫が得られるための雨量が与えられますように。
2. 先月でも触れましたが、再定住の人々のこと。外国メディアなどが、この再定住プログラムが適切に実施されていないと報道し、エチオピア政府批判が広がっています。どうか新しい土地での生活がスムーズに始められるよう必要なサポートがなされますように。
3. 再定住の人々がすでに安定した生活を始めているサシガ郡での新規プロジェクト開始の

こと。5月初旬には再び訪問して現地の調査をする予定です。その上で、今年、来年の具体的な計画を立て実行に移していこうというところです。

4. 日本にいる家族のため(健康など)。

◇あとかき◇

先月に限らず以前からのようですが、私の送る月間報告に不明な添付ファイルがついてくる
と数名の方から連絡がありました。すべてウィルスではないことは確かなのですが、添付もし
ていないものがついてしまう原因を探っているところです。傾向としては Outlook Express をお
使いの方に、この添付ファイルがついてくるようですが、他の皆様はいかがでしょうか。何か
異常があったら下記メールアドレスまでご連絡ください。

内容について、またメールの読みやすさ(文字の大きさ、行数、行間、文字数など)など、皆様
からの率直なご意見、ご感想をお待ちしております。遠慮なくよろしくお願いたします。

それではまた、

森田哲也

2004年5月

◇ご挨拶◇

5月が過ぎました。皆様いかがお過ごしでしょうか？いつもご支援をありがとうございます。
5月はちょうど、長い雨季に入る前の短い乾季にあたります。3、4月と大雨が降っても、それ
がまた一面乾いた大地に逆戻りします。農村地域では、農民達がこれから降るであろう雨に
備えて、畑の準備をしています。今年もしっかりと雨が降りますようにお祈りください。

◇近況◇

今月はお休み。

◇プロジェクトアップデート(活動報告):◇

再定住者のコミュニティー支援を含めた、サシガ農村開発プロジェクトの準備が進んでいます。
今月は現場調査と、プロジェクト活動に関係する政府機関との仕事を中心でした。周りに何も
ない大規模農場にぽつんと置かれた移住者の村々が広がる中、今年の雨季に向けてすでに

畑が耕され始めていました。中には移住した村が気に入らず、自分で元の地へ帰っていった人がいるとのことでしたが、それも少数。また、その多くも再び戻ってきているのです。

イスラム教徒である移住者と、これまでその土地にいた村との交流はいまだ目立つほど行われていないようです。土地の人々はほとんどがキリスト教徒なので、将来的な対立なども憂慮されています。これからの私達のプロジェクトがこの異なる村々に、どのように一致をもたらすかが大きなチャレンジとなりそうです。

あとは、プロジェクト開始に当たっての正式合意を得るため、エチオピア政府の役所周りが私達の仕事です。事業提案書などを提出し、そのコメントなどをお願いしても、すぐに反応するところもあれば、提出された書類が山と積もったほかの書類とごちゃ混ぜにされて、行方不明になったりということもあります。各役所が最後の調整役となる事務所への手紙を出す段階になっても、すぐに取り掛かってくれないし、書き始めても停電なったり、秘書のタイプが遅かったりで、結局私が秘書代わりに自分のパソコンでタイプすることもありました。仕事の効率が悪い役所と忍耐強く関わらなければならないのが、エチオピアで地道に NGO 活動をしていくための秘訣とも言えるでしょう。

来月には正式な合意書にサインをして、具体的なプロジェクト準備へと進むことになるでしょう。

◇今月の「はまったモノ」◇

エチオピアの刺身？

刺身のような歯ごたえで、わさび醤油でいただくといいものが、アボカドです。ほぼ1年中マーケットにあるものですが、やはりこの4月以降のアボカドが一番味がいいと思います。

すでに熟してやわらかいものを刺身のように薄く切って、わさび醤油で食べる。魚の刺身のような、ちょっとコリコリした感覚がないのですが、それでも独特の柔らかさとまったりした味が、日本のお刺身を思い出させます。もちろん、わさびは日本から持ってこなければなりません。これで今度の日本帰国まではお刺身を我慢できます。

◇そのほかの出来事◇

5月4日：JICA(国際協力機構)理事長の緒方貞子氏がエチオピア来訪。元国連難民高等弁務官だった方なので、国連関係者と在留邦人などを招いた夕食会に出席。「数秒だけ」直接本人へ自己紹介。

5月25日：JICA、日本大使館、NGOからの日本人有志の間で実施されている「エチオピアの教育を考えるタベ」発表会第3回目。今回は現在UNESCO勤務の方から南アフリカでの理数科教師養成支援プログラムの経験について報告。私は先月、メタロビでの小学校建設とそのプロセスにおける住民リーダーと直面した課題、教訓について発表。

◇今月の言葉◇

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。」

新約聖書ヨハネによる福音書 15章 16－17節

◇覚えてほしいこと、祈ってほしいこと・・・◇

1. 依然として大雨季が始まるのを待っているところです。貧しい農村地帯で、十分な農作物の収穫が得られるための雨量が与えられますように。
2. 再定住の人々のこと。移住して最初の年とあって、収穫を待つ間の食糧支援に頼らなければなりません、それがスムーズに配布されていない現実があり、栄養失調などで苦しむ人々が増えているとの報道がありました。引き続き必要な支援がなされますように。
3. サシガ郡での新規プロジェクト開始のこと。すでに関係政府からプロジェクト提案書へのコメントなどをいただいて改訂し、最終案を作成して、正式なプロジェクト合意をする予定です。
4. 日本にいる家族のため(健康など)。

◇あとがき◇

今回の月間報告の送付の方法を変えてみたので、前回まであった不明添付ファイルは付かなかったと思いますが、いかがでしたでしょうか？万が一、それでも添付がありましたら、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

また、報告の内容について、メールの読みやすさなど、皆様からの率直なご意見、ご感想をお待ちしております。遠慮なくよろしく願いいたします。

それではまた、
森田哲也

2004年6月

◇ご挨拶◇

皆様いかがお過ごしでしょうか。いつもご支援、お祈りをありがとうございます。

いよいよ雨が降り始めました。日中でも太陽が雲に隠れることが多くなるので、気温も下がります。しかし、日本の梅雨のようにジメジメした天候ではないので、しのぎ易いです。

欧米諸国からエチオピアに来ている宣教師達は、雨が降って寒くなり、また子供達の通う学校などが休みに入るこの時期から8月下旬まで、長い夏休みをとって里帰りをします。特にヨーロッパはこれから温暖で過ごしやすい季節が始まる観光シーズンを迎えるので、帰国する良いタイミングとなります。こうなると、日曜日のアジスアベバで英語の礼拝をしているキリスト教会に集う外国人が一気に激減し、教会も寂しくなります。

逆に日本はまだ梅雨の最中で、7月頃からは蒸し暑さも加わる、あまり過ごし易い時期とは言えないと思います(ここ数年、日本の夏を過ごしたことがないのでなんともいえませんが、どうでしょうか?)。こちらでは一年中十分太陽に当たっているし、もし帰国のチャンスがあるのなら、季節は寒くてもやっぱり新鮮な海産物がおいしい秋から冬でしょうか。四季のある日本ならではの楽しみがあるというのはすばらしいことです。

◇近況◇

今月はケニアの首都、ナイロビに研修のために行って来ました。エチオピアの隣の国であるのに、これまで一度も足を踏み入れたことがありませんでした。初めて野生動物がたくさんいる国立公園に入り、目の前でキリンや、サイ、シマウマなどを見てきました。

今回は FHI の海外スタッフと人事担当者を対象にしたストレス管理とスタッフケアについてのワークショップです。特に異文化の中で仕事をする海外スタッフは、気づかない間に大きなストレスを溜め込み、「燃え尽き」、結局体にも影響を残してしまうケースがよくあります。まずは、何がストレスとしての症状なのか、どうやってそれを発見するのか、そして、それに対してどういう対処をすればいいのか、といった点を細かく検証しました。また、心的外傷後ストレス障害(PTSD)、つまりは死や負傷などの危機に直面した人がかかる幻覚、精神的不安定などの障害に対して、どのように対処するかといった点についても、グループワークを通じて学びをしました。

ストレスは普段の生活に、普通にあるものとして受け入れるところから始まるのではないかと思います。それが限度を超えた時に、体や精神へ異常を来たすので、その前に気づく必要

がありますし、異常が現れた場合の対処を自分なりに用意しておくことも重要です。

私も、移動が多い日が続いたりして、毎晩泊まる場所が異なることで、熟睡できない、また考え事が多いという傾向が最近掴めてきました。熟睡できないことから、寝る体勢を崩して、これまで問題だった寝違えをして首の痛みが数週間取れない、ということに繋がったのではないかと推測しています。移動を避けることは出来ない場合もありますが、自分でもなんとかコントロールできるのではないかと、という希望が持てたことは良かったと思います。ストレスや痛みは避けることができなくても、それなりに付き合う方法はあるということです。

◇プロジェクトアップデート(活動報告):◇

サシガ農村自立支援プロジェクトは、正式に政府から合意が得られ、文書にすべての関連政府事務所が調印をしました。先月の報告でも触れましたが、官僚的な役所と良い関係を築き、忍耐強く働くことがエチオピアで NGO 活動する上での大事なポイントで、なんとか最初の難関を乗り越えることができました。

役所といってもそれぞれの風土があります。たとえば保健省の場合には、NGO 活動調整担当官がその場で提案書を審査し、コメントを出し、私達が修正して出直せば、その日のうちに事務所に最終責任者がいる限り、すぐに最終合意のサインが降りるという効率の良さ。担当官の机はいつもきれいさっぱりです。

一方、教育省では、まず担当官が事務所にいない。いても、訪問客や電話に掛かりっきりで話にならない。プロジェクト提案書を渡しても、机に山と積まれた書類にまぎれてどこにいったかわからなくなってしまう(自分の文書が山の一番上に置かれているかどうかを常に確認することが大事)。審査中に話していても、目が違う方向を向いている。担当官の審査を過ぎても、次の最高責任者が再び自分で提案書を全部読んで確認するという。部下を信頼していないのでしょう。しかし、責任者も忙しいので案の定全部読めない。数日放って置かれる。そして、結局は副次官がサイン。この過程で1週間を無駄にしました。

◇私の働き◇

とにかく最終合意が出たので、いよいよプロジェクト開始の準備に取り掛かります。私の主な役割は、プロジェクトの経済的支援をする諸団体との調整役と、プロジェクト運営を将来的に担うであろう現地スタッフの育成です。もちろん、細かい運営、管理は現地スタッフが担っていますが、プロジェクトの良し悪しは、地道に地域住民と関係作りをしていく、キーとなるスタッフのリーダーシップに掛かっています。例えば、地域に学校を建てる活動ひとつとっても、それを単に「活動リストのひとつ」として機械的に消化することだけを考えるスタッフであれば、技術者を呼んで短期に仕事を終わらせることで終わってしまい、地域の住民の心には何も残りません。良くて、新しい校舎が出来て表面上は住民に喜ばれるだけでしょう。

しかし、学校建設に必要な水や資材運搬などの小さな仕事でも、それを人々の「カづけ」や「気づき」「学び」のきっかけとして用いるようなスタッフであれば、同じ学校の建物を完成させるだけでなく、そこにいる住民の意欲を盛り上げ、次につなげていく人々自身の能力を開花させることができます。そして、一人の人の能力開花や良い気づきが、他の人へも感染していく。村へ、地域へ、そして国へと広がっていく……。

と、長期的に広がりを持った視野をスタッフ自身が持ち続けることが大事なのですが、それが容易ではないのが現実です。特に電気、水、電話もなく、家族と離れて、不便な生活を強いられる場所での仕事に加えて、貧しい農村は、予定していることがそのまま起きるような世界ではありません。すぐに結果が現れないことに、ストレスは当然溜まるし、またそのストレスを解消する場所も限られている。団体の理想は高くすばらしくても、時間が経つと「でも現実……」「どうせ……」という言葉が口癖になる。一人のスタッフの口癖が他のスタッフ間の「文化・風土」になり、やがては自分達がどこに行こうとしているのかを見失う。そして、スタッフの気持ちがそのまま住民に伝わり、人々の能力開花などと言っている場合ではなくなってしまう。と悪循環の種はいくらでもあるのです。

どうすればいいか？すぐに効果の出る特効薬は今のところわかりませんが、結局のところ忍耐をもって継続してそのスタッフを「一対一」でフォロー、ケアするしかないように私は感じています。フォローといっても、それは定期的にその人を訪ねて、達成項目に関してのレポートを提出させ、次の計画書をレビューし、コメントし、団体が掲げる理想をお経のように唱えさせ、「がんばれよ」と励ましの言葉をかけて去っていくことではありません。

逆に、毎日の生活や、出来事、小さな成果を「共に」積み上げていくことです。気づいたこと、感じたことをそのまま自分の言葉で表現するよう促し、良い成果を「その場で」タイミングを逃さずに褒める。失敗しても、次に出来ることは何かを自分で考え出し、実行に移せるよう具体化して、励ます。時にはチャレンジを迫る。そして、悪い点も褒める。悪いところを褒めるとは、イヤミを言うのではなく、その人が弱点としていることを少しでも克服できた瞬間をその場で評価することです。

例えば、遅刻癖がある人がたまに遅刻せずに来た時に、「時間通りに来てくれたね、ありがとう」と言うことなどもそうです。その場で言えば、たとえその行動が「小さな」ことであっても、「ああ、こうすれば喜ばれるのか」という、その人にとっては「大きな」気づきのきっかけになりえます。「この人はいつも遅れる」というその人の悪い点ばかりに目をつけていると、それが克服された瞬間を「学び」の機会とすることができません。「出来て当然」という解釈に落ち着いてしまい、結局向上心が生まれません。

逆に、その悪いとされている点さえも成長に必要なきっかけと捉えるならば、課題を乗り越えた小さなステップをしっかり評価することで、次への自信に繋がります。そして、そういった小さな自信づけが、他の人をも自信付けるにはどうしたらよいかを自分で体現し、理解、実践す

ることに繋がります。今の時点で目に見えることだけでなく、もっと将来的な広がりをも焦点に
入れた活動だけに、それに関わる一人一人のスタッフの質が問われます。

これまでの学校教育で浸透していた「詰め込む」「教え込む」といった方法ではなく、その人の
持っている潜在能力に気づき、それを引き出し、伸ばす手法を最近「コーチング」と呼んで、
スポーツ界だけではなく、ビジネスの分野でも広く応用されてきています。ある意味で私がこ
れからサシガのプロジェクトに関わろうとしていることのひとつがこのコーチングの実践です。
継続可能で良い結果をプロジェクトで生み出すには、スタッフ・「ひと」が不可欠です。

しかし、目に見えるものをまず完成させ、寄付をした支援者側の評価を請うのが、一般の民間
援助団体の行動パターンなので、あまり成果として表に出てこない側面の多い「人・スタッフ」
の育成には無関心になりがちです。また、支援者にもその必要性を理解していただくことが困
難です。

私たちのこれまでのプロジェクト評価といえば、やはり「数量的」に成果を測れる指標に頼りが
ちになる反面、私達の多くが「質的」な側面こそが大事だと捉え始めており、それをどう評価と
して加えるかが課題として残されてきています。その中で、このコーチングの概念をNGOの業
界でどれだけ応用できるのかが、ひとつのチャレンジです。国際協力の成果をどう測るのか、
その答えを出すステップともなればと考えています。

もちろん、私自身もコーチングされる必要があるので、これは私が教えるということよりも、私
にとっても学びの機会です。過去 3 年間のエチオピアでの働きも、特に核となる現地スタッ
フの入れ替わり、プロジェクト撤退といった難しい課題に関わる中で、特定の少数スタッフとのコ
ーチングのし合いだったのではないかと、今振り返ると思います。私のがし上り、主役となる
のではなく、現地のスタッフが主役となり、活動地域の住民が更に主役になれるように励ます
こと。これがサシガプロジェクトでの私の役割となります。どうぞこの新たな働きを覚えてお祈
りください。

◇今月の「はまったモノ」◇

エチオピアのディズニー？

エチオピアの子供達が好きな、エチオピア国産のキャラクターは？といっても漫画などの産業
がほとんど存在しない国だけに、指で数える程度。手人形で有名な芸人は何人か。日曜朝の
子供テレビ番組の多くは、セサミストリートなどの外来モノ。唯一「アッパ・タスファイ」と呼ばれ
る高齢のおじさんは、子供の話す出来事に対してやさしくアドバイスしたり、色々なお話を
して子供達に人気です。

ちょうど三年前ぐらいから、日曜朝の番組にコンピューターグラフィックスで出来た奇妙なエチ

オピア人の子供が出てきて、エチオピアの民族舞踊を踊っているのは見たことがあります。いよいよエチオピアオリジナルのキャラクターかと思っていたら、ついにそれが最近人形となり、そしてその踊る子供のビデオ CD まで販売されたのです。まだまだ、食べ物を求めて苦しんでいるひとが多くいるエチオピアにあっては、娯楽の世界に投資しても、その効果が薄いとされているので、相当の物好きでないかぎり新たなキャラクター発掘に力を注ぐ人はいないでしょう。しかし、今回購入したビデオ CD はなかなかの出来です。

4 つの民族舞踊を、なぜか上半身裸で小さな子供と思われる体格のエチオピア人が、体をカクカクさせながら踊ります。肩を上げ下げする踊りで有名なエチオピアダンスをそのままするので、本物のエチオピアダンスを知っている人が見ると大笑い。その名も「センゼロ」。すべてコンピューターでプログラムされたものにしては良く出来ています。

これを開発したのが、グルマ・ザラカさん。600 万円ほどの初期投資をして、15 人の従業員を抱える工場を設置。一日あたり 100 個のセンゼロ人形を製造し、最初の借金を 1 年で返済すると意気込んでいるようです。まだまだ、私の身近なエチオピア人の中で知っている人はそれほど多くはないのですが、少しずつ広まっているようです。

そのグルマさん曰く、「エチオピアの子供達の多くは、肌の白い外国産の人形で遊んでいる。自分もそうだった。最近の漫画もポケモンなど。なぜ、エチオピア人の人形や独自のキャラがないのか？センゼロを通じて、アメリカのディズニーに代わる、エチオピアのディズニーになる！」と意気揚々です。自身の文化への誇りから、ビジネスを始めるところがエチオピアらしいです。ただ、大きなアイデアを持っているエチオピア人はたくさんいるのですが、実際に行動に移す人は稀ですから、彼のステップは評価できることです。

(センゼロのウェブサイト：<http://www.senzerodoll.com>)

もちろん、親しみを覚えるキャラかどうかは別で、コンピューターグラフィックスで製作された割にはどうも表情がなく、人形もどことなく不気味で重量があり、自分の部屋に置いておきたいとは思いません。エチオピア人の美的、ユーモア感覚が違うので、それが受けることもあるのでしょう。これからのセンゼロの活躍に期待しつつ、エチオピアに希望、笑いをもたらす文化がもっと増えることを願います。

◇そのほかの出来事◇

6 月 10 日：サシガ農村自立支援プロジェクト実施のための、政府合意書が作成。調印。

6 月 14 日—19 日：ケニアの首都ナイロビにて、FHI の海外スタッフ、および人事関係者を対象にした、ストレス管理とスタッフケアについてのワークショップに参加。

6月26日ー7月2日:サシガ農村自立支援プロジェクトを支援する予定のFHI(国際飢餓対策機構)カナダ事務所から訪問客受け入れ。現地を案内。

◇今月の言葉◇

やれるかも知れない、と思った時、自分でも気づかなかった力が出てくるものなのだ。初めから、できないと言えば、できずに終わる。

——— 三浦綾子(作家)

「ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くして下さるためです。あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配して下さるからです。」新約聖書第1ペテロ5章6ー7節

◇覚えてほしいこと、祈ってほしいこと・・・◇

1. サシガ郡での新規プロジェクトの準備のため。これから現場に入って行って、村の人々との関係作り、基盤となる事務所設置や、適切なスタッフ雇用へ向けての準備が中心となります。
2. オーディット農業復興プロジェクトのため。すでに、大部分の活動を地元の農協と政府に引き渡し始め、それぞれが自分達で活動を進められるようサポートを年末まで行います。
3. 日本にいる家族のため(健康など)。

◇あとがき◇

参議院議員通常選挙。エチオピアにいても、在外選挙人として登録していれば投票ができます。選挙カーのうるさい宣伝を聞くことがないので、雰囲気がかめませんが。

さて、今回も報告の内容について、読みやすさなど、皆様からの率直なご意見、ご感想をお待ちしております。遠慮なくよろしく願いいたします。

それではまた、

森田哲也